

4.

主務員	庶正	庶務長	部長
-----	----	-----	----

部外秘

陸技 87.8 附受

昭和八年 軍需審議會ニ於ケル題答事項
六月卅日

昭和八年七月四日
陸軍技術本部第二部

議題第一 九二式重機銃銃假制式制定ノ件

<p>三木中將</p> <p>現制機銃銃ニ比シ銃身命數著シク小ナルカ如シ地金、肉厚等ノ研究ニヨリ命數增加ノ餘地ナキヤ</p>	<p>鈴木中佐</p> <p>七耗七重機銃制定ノ結果將來二種實包トナルモ選用上差支ナキヤ</p>	<p>鈴木中佐</p> <p>將來小銃及輕機銃ヲモ七耗七ニ改造ノ企圖ナキヤ</p>
<p>中島少將</p> <p>新銃身ニヨリ密査セル判定ニシテ舊銃身ヲ改造シタルモノモ差異ナキカ如シ尙御質問ノ如キ改竄研究ハ別途ニ考慮シ度</p>	<p>德塚少將</p> <p>特種利益ノタメ彈藥補充等ノ不利ハ忍ビ得ヘシ</p> <p>馬場中佐</p> <p>威力ノ要求上多少ノ不便ハ忍ハサルヘカラス</p>	<p>德塚少將</p> <p>射擊反撞緩和等ノ問題解決セハ之カ實現ヲ希望ス</p> <p>中島少將</p> <p>小銃口徑ノ増加問題ハ研究方針ニ明示セラルル重要案件ナルモ諸般ノ關係上現在研究ハ中止シ居レリ</p>

十九

1395

山下大佐	飛行機用機關銃ノ口径ハ如何、九二式重機ニハ飛行機用特種實包ヲ使用シ得ルヤ	中島少將	今回上申ノ九二式重機機關銃ト同一口径ナリ尙飛行機用特種實包ハ九二式ニモ使用ノ目的ヲ以テ審査ヲ進ムル豫定ナリ
鈴木中佐	本重機機關銃整備ノ計畫如何	上月大佐	幹事會ト畧同要領ノ回答ヲナス
三木中將	銃身命數増加ノ爲前ニ述ヘタル外彈藥等ニ就テモ研究繼續ヲ望ム	中島少將	過般ノ試驗成績ニ徴スルニ命數ノ長短ハ使用彈丸ノ影響大ナルカ如シ、彈丸ニ就テモ新樣式機關銃ノ研究ト共ニ全ク別途ニ研究ヲ進メントス
三木中將	整備計畫上豫備銃身ノ數ヲ如何ニ定メントスルヤ	中島少將	彈藥八千發ニツキ銃身一本ヲ補充スル如ク提案セリ
林 中將	銃身交換性如何	中島少將	絶對互換性ヲ有スル如キ製造方式ヲ採リツツアリ、但銃尾機關ノ「マクレ」等ノ爲擦り合セ作業ヲ要スル現狀ニアリ

十九

會長

與藤ナキヤ
全員與藤ナキモノト認メ原
案通可決

議題第三 二十耗機關砲、三十七耗戰車砲研究方針追加ノ件

問

寺倉中佐

二〇耗機關砲及三七耗對戰
車砲彈藥ニ關スル計畫如何

長澤中佐

答

篠塚少將

對飛行機用各種火器ノ高度
二千米以下ニ於ケル命中公算
如何

中島少將

二〇耗機關砲
曳光榴彈及徹甲彈（無炸）
三七耗對戰車砲
榴彈及徹甲彈（有炸）
過般明野ニ於ケル航空部ト
ノ共同試驗ノ成績ニヨルモ
未タ的確ナル數値ヲ得ル能
ハス尙外國ニモ借用シ得ル
モノ見付カラス

三木中將

平高射機用砲架ノ重量四五
〇疋ハ歩兵部隊ノ運用上差
支ナキヤ

中島少將

差支 ナシ

<p>三木中將</p> <p>照準ヲ繼續シツツ連續發射可能ナリヤ</p>	<p>中島少將</p>	<p>可能ナル如ク設計セントス</p>
<p>三木中將</p> <p>三七耗對戰車砲ノ初速及對鋼板威力如何 三七耗ト二〇耗トノ一彈ノ效力比較如何</p>	<p>中島少將</p>	<p>初速七〇〇米ニシテ千米ニ於テ約二三耗鋼板射貫ノ豫定 二〇耗ノ何發力果シテ三七耗ノ何發ノ效力ニ相當スルカハ未タ見當ヲ付ケアラス 別途ニ研究スル考ナリ</p>
<p>篠塚少將</p> <p>對空、對戰車用トシテ三七耗級以上ノモノヲ特種運搬ニヨリ別ニ使用スル如キ研究案アリヤ</p>	<p>中島少將</p>	<p>精度不良、一彈ノ效力又中途半端ニシテ野戰用トシテ研究ヲ進ムル考ナシ</p>
<p>山脇大佐</p> <p>十三耗機關砲ノ價值如何</p>	<p>中島少將</p>	<p>保式十三耗機關砲ノ實用試驗成績ニ徵スルニ高度千五百米附近ニ於テハ實用ニ適セサルモノト判定ス又明野ニ於ケル今回ノ試驗ニ於テ</p>
<p>山脇大佐</p> <p>假令大ナル高度ニ於テ精度不良ナリトスルモ運用上所望ノ高度ニ於テ相當ノ精度アレハ差支ナカルヘキカ</p>	<p>中島少將</p>	<p>於ケル今回ノ試驗ニ於テ</p>

會長	二〇耗機備砲及三七耗對戰車砲ノ審査進捗豫想如何	中島少將	モ精度不良ニシテ千米附近ニ於テハ遠ユ一發ノ命中彈ヲモ得ルユ至ラス 二〇耗ハ大体本年内ニ第一試作ヲ完了シ九年三月迄ニ之ニ對スル審査ヲ了リ次テ九年六月末迄ニ第二次審査完了ノ豫定 三七耗ハ九年三月迄ニ審査完了ノ豫想ナリ
植村少將	三七耗機備砲ノ研究ハ將來如何ニスルヤ	中島少將	本砲ハ對空ノ外對戰車任務ニモ使用ノ用途ヲ以テ研究ヲ繼續シ度考ナリ
三木中將	三七耗對戰車砲ト二〇耗機備砲ノ裝備體架ハ如何ニスル案ナリヤ	寺倉中佐	三七耗ハ聯隊砲ニ當テ二〇耗ハ師團ニ裝備ノ豫定ナルモ編制上未タ結論ニ達セス將來兵器ノ審査狀況ニ應シ確定セントス
古莊中將	二〇耗機備砲ハ獸戰シ得ルヤ	中島少將	現制山砲程度ニ分解獸戰ノ

寺倉中佐	從來高度二千乃至千米ノ低 空飛行機ニ對シテハ七糶高 射砲ハ鈍重ナリトノ定論ナ リシモ近時運用者側ハ高度 五〇〇米以上ニ在リテハ射 撃迅速ユシテ射撃效果大ナ ルコトヲ高調シ居レリ果シ テ如何	會長	三七糶對戰車砲ノ發射速度 三〇發トアルモ双聯砲トナ シ威力ヲ増進シ得サルヤ	三木中將	二〇糶彈丸ハ斜射ニ在リテ ハ益ク效力ナキヲ以テ直射 フ機率スル對戰車威力ハ敵 ニ不徹底ノモノタルヲ免レ ス、寧ろ對戰車砲ハ三七糶
廣野大佐	待機ノ高射砲ハ高壓千米、 直距離千五百米附近ニ出現 セル飛行機ニ對シテハ效力 アル射撃可能ナルモ一般ニ 二千米以内ニ突然現出スル 飛行機ニ對シテハ現制七糶 級高射砲ハ依然トシテ鈍重 ヲシテ效力不十分ナルヲ免 レス	中島少將	充分實現性アルモ砲架ハ少 シモ野砲級トナルヘク從テ 重量増加ノ爲第一線歩兵部 隊ト行動ヲ共ユスル條件ニ 背反スルヲ免レス	中島少將	二〇糶機關砲ヲ對戰車兼用 砲トスルモ設計上對空威力 ハ毫モ低下セシメサル考ナ リ 尙後段御質問ノ如キ影響ナ

續リナリ

砲ノミトシニ〇耗機關砲ハ
 對空專用トシテ十二分ノ威
 力ヲ發揚シ得ル如クスルヲ
 可トセン、尙之カ爲火砲重
 量ヲモ輕減シ得ヘケンカ

砲三七耗	砲二五耗	砲二〇耗	火力		レ 道殺伊良湖ニ於ケル地上試 驗成績ニヨリ對飛行機威力 フ類推判定スレハ次ノ如シ
			飛行機 ニ對スル 效力	發動機 ニ對スル 效力	
ヲ壓落機ヲ戰壞シ墜 セシム圍圍外落セシ	ヲ戰圍中セハノ運轉 ヲ外ニ致命的ヲ不能 驅逐シ效果アナラシ 得	ヲ敵機部ニ命中ヨリ其 ヲ戰圍中セハノ運轉 ヲ外ニ致命的ヲ不能 驅逐シ效果アナラシ 得	大同小機關部一彈ノ 大異ニシ等ノ要命中ニ	飛行機關體ニ發動機 ニ對スルニ對ス ニ對スルニ對ス ニ對スルニ對ス	翼桁等致命的一彈ヲ ニ命中損傷ヲ以テ完 セハ之與へ敵全ニ破

陸軍

<p>篠塚少將</p>	<p>對戰車專用ノ二〇耗機關砲ヲ研究セラレ度 理由 一、對空ヲ主トシテ出發セハ自然對戰車性能ノ十全ヲ望ムヘカラス 二、三七耗一彈ノ效力ハ二〇耗ノ數彈ニ或ハ匹敵セン 三、三七耗機關砲ハ發射速度ニ對シテ機關砲ニ及ハス 四、平射步兵砲ノ實驗ニヨルニ發射速度ハ空包ニテ一分一二乃至一五ナリ又大正十五年ノ實驗ニヨレハ敵ノ戰車力四五百米ニ接近セハ之ニ對シ一分八發内外ヲ發射シ命中彈漸ク三發ヲ得ル程度ナリ</p>
<p>會長</p>	<p>三十七耗對戰車砲ノミニテハ心配ナリト云フ意見ノ如ク原案ニハ異議ナキカ如シ</p>
<p>ルコトニ驅逐ムヲ得レ得</p>	

實戦後復坐ノ時間及裝填 時間モ相當大ニシテ假令 特種機掃トナスモ恐ラク 一分三〇秒ハ困難ナルヘ シ 四從來ノ實戦ヲ加味セル計 算ノ結果敵戦車カ一〇〇〇 米ヨリ出發セル場合之ヲ 撃滅シ得ル合數ハ	距離 離	撃滅合數
	千米内外	二〇耗機關砲 一四 三七耗速射砲 九
三〇〇米 以内	二〇耗機關砲 八 三七耗戰車砲 四	本數量ハ幾多ノ假定ヲ基 礎トセル結果ナルモ大体

五機關砲ハ比較的彈道低伸
 且敵戰車ニ近接スルニ
 從ヒ射貫威力大トナル
 六命中精度ハ假令劣ルモ數
 戰車併進ノ場合三七耗速
 射砲力敵ノ一戰車ニ命中
 スルニ對シ二〇倍機關砲
 ハ跳飛彈力數戰車ニ命中
 スル場合モアリ
 以上ノ如ク機關砲ハ近距離
 ニ於テ比較的威力大ニシテ
 特ニ敵戰車力煙幕若ハ地形
 フ利用シテ近ク出現スル場
 合ヲ豫想スル時ハ益々其ノ
 有利ナルヲ肯定シ得ヘク
 此際二〇倍機關砲ノ威力カ
 三七耗戰車砲ニ劣ルモノト
 断定シ審査方針ヲ定ムルコ
 トハ過早ナルヘシ

<p>會長 三木中將ハ二〇耗機關砲ヲ以テ對空專用トスル意見ナリヤ</p>	<p>編少將 實戰ノ經驗ニ依ルモ高度千乃至二千米ノ飛行機ニ對シ此種彈丸ヲ以テ果シテ幾何ノ效力ヲ期待シ得ルヤ甚々疑ハシク假令命中彈ヲ得ルモ敵機ノ行動ヲ制限シ又ハ戰闘圏外ニ驅逐スル丈ノ效果ヲ收メンカ爲メニハ相當口径ノ大ナルモノヲ必要トスルカ如シ尙曳火彈ニ非サレハ塔乘者ハ射撃ヲ受タルモ無感覺ニテ操作シ彈丸ノ曳火ヲ目撃シテ始メテ戰場心理ニ自己ノ環境ヲ置クカ如シ、只急速整備ヲ要スル關係モアリ不取敢對空用トシテ二〇耗機關砲ヲ研究セラルルコトニハ敢テ異存ナ</p>
<p>三木中將 然リ</p>	<p>會長 一彈力數戰車ニ命中スル如中照準ヲハ困ル</p>

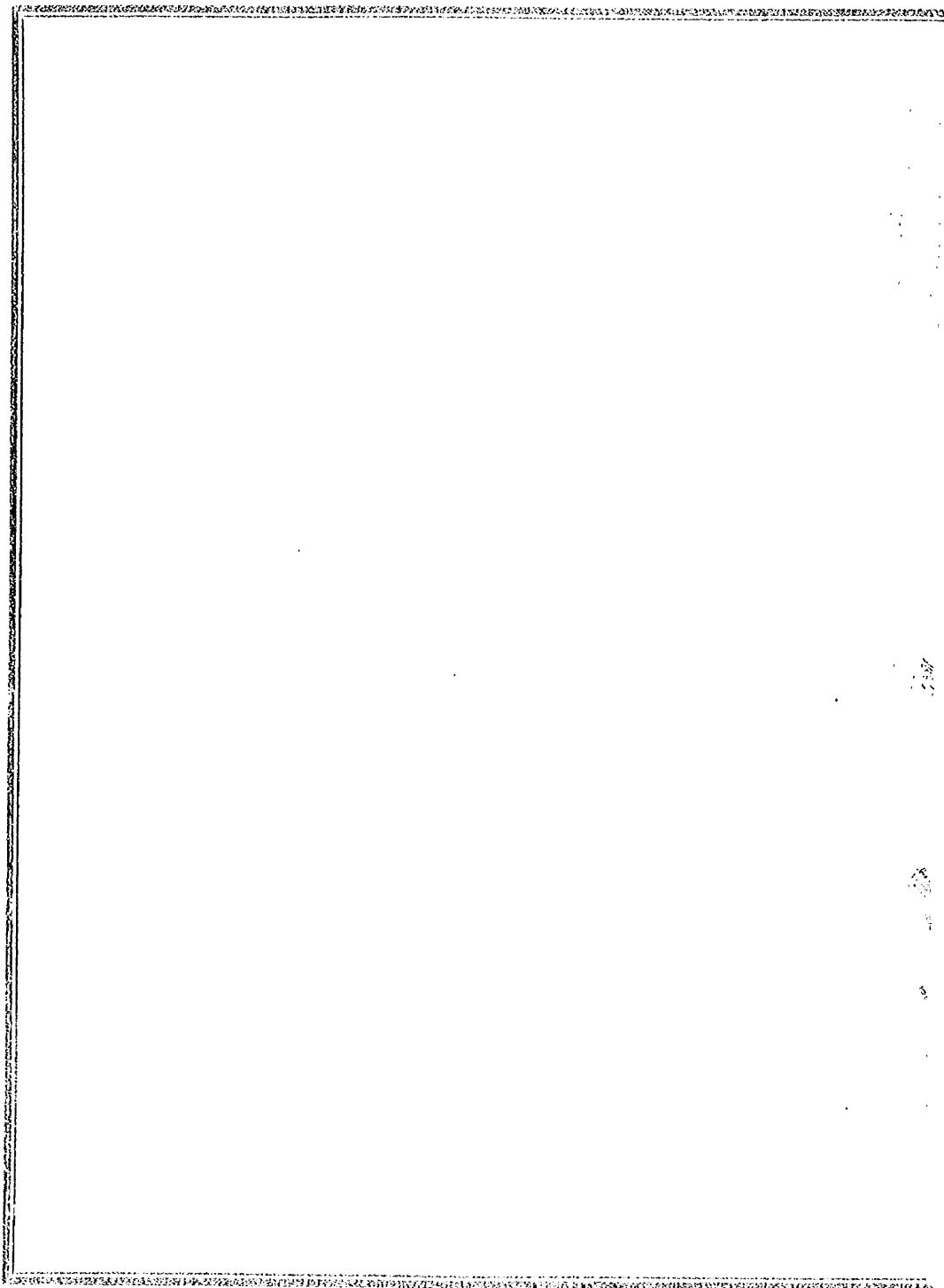
<p>篠塚少將</p>	<p>會長</p>	
<p>對戰車專用トシテ研究スル 三七耗速射砲方試製後果シ テ諸要求ヲ充足シ得ルヤ否 ヤヲ心配セル結果ト又一方 二〇耗機關砲ハ比較的實現 性容易ナルヘシトノ見解ヨ 意見ヲ開陳セシユ止マル</p>	<p>諸官中ノ意見ハ大体 一止ムヲ得ス全意スルモノ 三三七耗戰車砲ニ全意スル モ二〇耗機關砲ノ對空ヲ 主トスルコトニ不同意ナ ルモノ 与尙別ニ三七耗機關砲ノ研 究繼續ヲ希望スルモノユ 區分シ得ルカ如シ何方他 ニ意見ナキヤ</p>	<p>中モ少クモ三七耗級ノ對空 兵器ノ研究ヲ促進セラレン コトヲ切ニ希望スルモノナ リ</p>
<p>中島少將</p>	<p>三木中將</p>	
<p>完成後ニ非サレハ其ノ能力 ニ就中斷定シ得サルヘキモ 全力ヲ注中大成ヲ期スル考 ナリ尙技術上ヨリ考案スレ ハ金々反對ノ心配ニシテ三 七耗速射砲ハ研究ノ經驗ア リ審査ハ案外容易ナルヘキ</p>	<p>步兵學校ノ意見ニハ彈丸效 力上金々反對意見ナリ</p>	

<p>會長</p>	<p>山崎大佐</p>	
<p>大体第一、第二共原案通可決 シ異議ナキモノト認ム</p>	<p>三七耗戰車確力理想的ニ完 成シタル場合ニ於テモ整備 數ニ制限アルヲメニ〇耗機 關砲ヲ對戰車ニ專用シ得ル 必要アリト考フ 併シ何レヲ主トスルモ性能 上拘束サレヌ且豫想威力ニ 差異ナシトスレハ原案ニ全 意ナリ</p>	
<p>篠塚少將</p>		
<p>修正意見アリ 修正案次ノ如シ 對空ヲ主トシ對戰車ニモ使 用シ得ルコト、但シ別ニ對 戰車専用ノモノヲ研究スル コト</p>		<p>モ二〇耗機關砲ハ無經驗ニ シテ機構モ六ヶ敷率ロ一般 ノ心配ハ之ニ存スル所ナル カ故ニ此點ニ關シテハ白紙 ヲ以テ御考ヘアリタシ</p>

會長	歩校ノ修正案ニ對スル意見如何	山脇大佐	審査當局ノ説明ニ信賴シ原案ニ贊成セルモノナリ、万一ニモ二〇耗機關砲ノ對戰車性能力低下スル心配有ル様ナレハ歩校ノ修正案ニハ強テ不同意ニ非ス
會長	對戰車專用砲トスレハ何カ性能上變ハル懸念アリヤ	篠塚少將	尙次ノ通修正ヲ望ム 對空ヲ主トシ對戰車ニモ使用シ得ルコト 但シ別ニ對戰車專用ノ砲架及照準具ヲ研究スルコト
鈴木中佐	別ニ對戰車專用砲架ヲ研究スルナラハ異議ナシ	中島少將	砲架ト照準具ノミヲ異ニス但何レヲ主トスルモ對戰車用トシテ威力ヲ低下スルコトナク步兵學校ノ提案セラレタルモト事實ハ一致セラルカ故ニ修正スルモ敢テ差支ナシ
塚田大佐	時局ノ關係上本目的ノ爲ニハ原案通決定セラレ度シ若シ別ノ研究ヲ必要ト認ムル時ハ更メテ別途ニ議題ヲ設ケ審議セラレンコトヲ望ム		

會長	意見區々ナルカ如シ原案贊成者ハ舉手セラレ座	會長	多數ノ意見ニヨリ原案通り可決ス 尙幹事會ニ於テモ充分論議サレタルヘキモ本案ハ歩兵專用ニ偏セルカ如シ騎兵其他ニモ必要ナルカ故ニ審査ニ當テハ此件ヲ考慮ニ置キ研究ヲ希望ス
（歩兵學校ヲ除ク外全員舉手）			

陸軍



1410